

## 歯科診療における経皮的曝露（針刺し）の対応を考える

国立病院機構 名古屋医療センター 歯科口腔

外科

宇佐美雄司

言わずもがなですが、歯科診療には抜歯をはじめ観血的処置が多くあります。また、支台歯形成でも、歯肉からの出血をきたすことはまれではありません。加えて歯科治療器具には鋭利なものや、尖ったものが少なくありません。そのため、歯科診療においては他の医療分野に比較し、血液、体液の経皮的曝露の頻度は高いと推測されます。

平成19年の医療法改正の際に一般歯科医院においても、医療安全の一部として感染対策の実行が義務であることが明確に示されています。その中で経皮的曝露時の対応準備も求められています。その対応として、歯科医師会からの配布マニュアルや感染対策の書籍には経皮的曝露時の対応チャートが記載されています。では、実際に経皮的曝露が発生した時にそのチャートに則り行動に移すことができますか？

例えば、チャートに則るには曝露源の血液検査が必要ですが、採血や血液検査をどこで行いますか？曝露源の血液検査ができない時はどうしますか？すなわち、経皮的曝露時の対応の仕方は図示されているものの、その図の隙間に隠れている意味を理解し備えておかねば対応はできないのです。名古屋医療センターは東海ブロックのエイズ診療ブロック拠点です。そのためか、時々、歯科医院やその従業員の方から経皮的曝露時の相談の連絡がありますが、やはり、あまり（ほとんど）理解されていない感がします。そこで本講演では、成書などではなかなか示されにくい歯科医療時の経皮的曝露について解説したいと思います。

#### 略歴

1982年3月 大阪大学歯学部卒業

1982年4月 名古屋大学医学部口腔外科学講座入局

1996年10月 医療法人豊田会 刈谷総合病院（現刈谷豊田総合病院）歯科口腔外科部長

2010年4月 国立病院機構 名古屋医療センター歯科口腔外科医長 現在に至る

#### 資格等

医学博士

日本口腔外科学会専門医・指導医

日本口腔科学会認定医・指導医

日本有病者歯科医療学会専門医・指導医

#### その他

厚生労働行政推進調査事業補助金エイズ対策政策研究事業

「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究」の分担研究者（歯科の医療体制整備に関する研究を担当）